



第 50 号
平成29年 3月27日 発行
発行 埼玉県立がんセンター
発行責任者
病院長
坂本 裕彦

基本“唯惜命”
理念

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、先進の医療と博愛・奉仕の精神によって、がんで苦しむことのない世界をめざします。

目次

- 口腔外科の紹介……………1
- 埼玉県立がんセンター医療サービス・ボランティア委員会活動報告……………2
- 7階西病棟 紹介……………3
- 第7回埼玉県がんサイエンス・サロン／「第41回埼玉県民のための“がんの集い”」を開催しました…4



埼玉県のマスコット コバトン

口腔外科の紹介

口腔外科科長兼部長 石井 純一

当院においては病院の性格上、口腔外科一般の診療のうち口腔癌に特化した診断、治療、研究を行っています。

「症例数と最新の治療法」

当院における直近の疾患数は年間舌癌89例、上下顎歯肉癌47例、頬粘膜癌13例、その他であり、舌および歯肉の2大疾患が全体の73%を占めております（埼玉県立がんセンター年報、第40号・平成27年度より）。

当科で行っている最近の治療法についてお伝えします。舌および歯肉の二大疾患の一つ舌癌に対しては超音波ガイド下術中超音波診断（図1）を当院検査部の協力で行っています。方法は手術室で術前に癌の長径、短径、厚さを複数回測定し記載します。術中は特に厚さの値を参考にして切除範囲を決定し、切除術を行っています。詳細は省きますが、手術を行うと同時に超音波エコーで切除部位を確認しながら切除をして行くと、手術中に切除量が十分かどうか分かります。

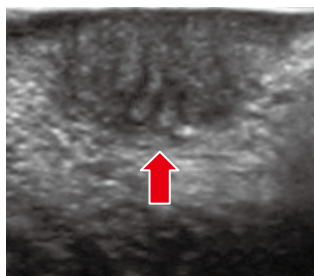


図1 矢印が癌を示します。

その結果、局所再発率を超音波導入以前と比較すると43.6%から11.4%と有意（有意水準5%）に減少しています。さらに、腫瘍の厚さが5mmを超えるような内向性の腫瘍ではKaplan-Meier法による5年累積生存率は導入前が43.3%に対し導入後は72.9%と有意に生存率の改善が見られました（図2）。

次いで、上下顎骨の病変に対する新しい取り組みについ

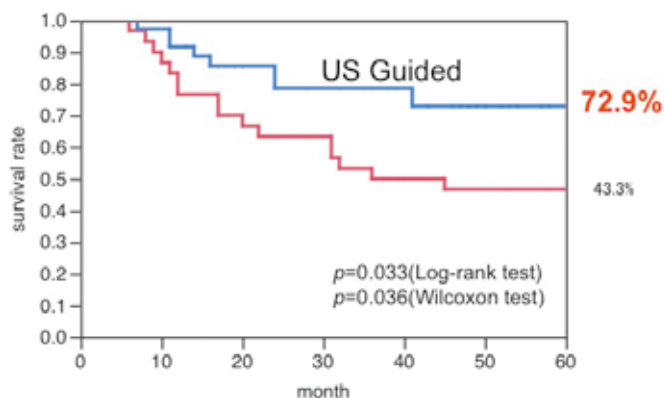


図2 厚さ5mmを超える舌癌の5年累積生存率（上が超音波使用、下が従来法）

て述べます。歯肉の直下は顎骨（歯槽骨、歯槽突起）であり癌の浸潤如何では顎骨の処理が必要になってきます。特に下顎骨では区域切除と言って左右の顎骨が離断される場合は咬合関係の再現が必要になります。以前は、手術室で再建プレートを曲げていました。時間はかかりますし、高度の熟練を必要としました。そのため手術時間が延長するということも度々見られました。

解決法として導入したのはCTの情報を利用して3Dプリンターから実物大の模型を作る方法です。模型を利用して術前の検討、手術のシミュレーションを行い、再建プレートを術前に屈曲、適合させて用意できるようになりました。これにより手術時間の大幅な短縮が実現しました。（図3）



図3

口腔ケア（医科歯科連携）

がん治療中には、薬剤による口腔粘膜炎症や顎骨壊死、口腔内の細菌による肺炎等、様々な口腔内の症状や合併症が出現することが知られています。

当科では、がん治療前や緩和ケアの患者様に対して歯科衛生士による適切な口腔衛生指導やケアを行うことで、合併症のリスクを減らし、がん治療が円滑に進むようサポートしております。

埼玉県立がんセンター

医療サービス・ボランティア委員会

活動報告



医療サービス・
ボランティア委員長
副病院長兼看護部長
徳世 良重

医療サービス・ボランティア委員会は入院患者さん及び外来患者さんの医療サービス向上とがんセンターにおいて行われるボランティア活動の適性かつ円滑な実施を図ることを目的に設置されました。委員会は、医療サービス部会とボランティア部

会に分かれ、医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、事務局職員等の多職種で協働して活動しています。今回はそれぞれの部会の活動報告をさせていただきます。医療サービス部会は、年1回の患者満足度調査を実施し、多くの患者さまのご意見を取り入れ、医療サービス向上に向けて、PDCAサイクルを回しています。平成27年度から平成28年度にかけて医療サービス向上に向けた取り組みの主なことは、①外来呼出器の携帯ケースの導入、②携帯電話使用場所の拡大、③面会時間の拡大、④接遇強化のためのポスター掲示などでした。平成28年度の入院患者さんの満足度調査の結果、満足度の平均得点は90.6点で、昨年度に比較して、1.1ポイント上昇しました。特に面会時間については昨年度に比べて20.2ポイント上昇しました。これは患者さんやご家族のご意見を大切に開院当初から変わらなかった面会時間の拡大を実現した成果だと思っています。平成29年度に向けては、この患者満足度調査の結果を分析し、更なる医療サービスの向上をめざした取組を検討する予定です。

次にボランティア部会の活動報告です。ボラン

ティア部会は、総務・職員担当が窓口になり、外来ボランティア、ボランティアコンサート、クリスマスコンサートなどのボランティアの受け入れを行っております。また、四季折々のイベントを企画しています。5月は端午の節句飾り、5月12日の看護の日を祈念しての看護の週間にはふれあい看護体験などを通して看護の仕事を理解していただけるような企画をしています。そして、7月は七夕飾り、12月はクリスマスコンサートとイルミネーション飾り、3月は雛祭り、こうして病院の1年がめぐっていきます。病院という非日常の場で、少しでも日常を感じていただければ幸いです。

4階の屋上庭園には、がんセンター新病院開院記念に浦和レッズから送られた「レッズローズ」が四季を通して咲き続けています。冬、雪降り積もる中、強くたくましく可憐に咲く「レッズローズ」に励まされる方もたくさんいると思います。私もその中の一人です。

今後とも、多くのボランティアの方々に支えられて日本一患者さんにご家族にやさしい病院をめざしていきます。





7 西病棟師長 高橋 純子



7 西病棟師長
高橋 純子

埼玉県立がんセンターの7階は、骨盤内臓器（婦人科疾患・泌尿器疾患・大腸疾患）の病気をもつ患者さんが入院しています。7階には、東西2つの病棟があり、7階西病棟は主に婦人科・消化器外科（大腸）・放射線科（全科対象）泌尿器科の患者さんが入院される病棟です。「手術療法」「化学療法」「放射線療法」と、がん医療のさまざまな治療が行われています。4つの診療科医師と病棟看護師・看護助手・病棟クラークが連携し、笑顔とあふれる活気が自慢の病棟です。



今年は、「婦人科のがん患者を支える」をテーマに、病棟全看護師で取り組んでいます。ここでは、婦人科がん患者さんの看護について述べさせていただきます。婦人科がん患者さんの看護では、女性の生き方や役割が複雑化・多様化している現代において、現代女性の特徴をトータル的に捉えることが重要です。がんの予防・早期発見・診断・治療の過程、サバイバーシップのどの時期において、女性としての役割や生き方を大切にしていくこと

を目標としています。特に、婦人科がん患者さんは、手術後の後遺症を含め、卵巣機能障害や女性性に関わる悩みを抱えながら生活しています。患者さんの立場にたち、これらに対する生活指導や精神的看護支援、個別性を重視した看護が実践できるよう努めています。

また、一日も早く安心して退院していただくために、週2回「退院支援カンファレンス」を行っています。入院直後から患者さんひとりひとりの退院後の生活を考え、家族および退院調整専従看護師・医療ソーシャルワーカー・病棟専任退院支援看護師・皮膚・排泄ケア認定看護師・病棟看護師など様々な専門家が協働し、患者さんのライフサイクルを支えています。病院の理念である「がんて苦しむ人がいない世界を実現する」ために、医療チームがそれぞれの専門性を発揮し、がんセンターに入院してよかったと思っただけの病棟を目指して、これからも職員一同力を合わせてがんばっていきたいと思います。

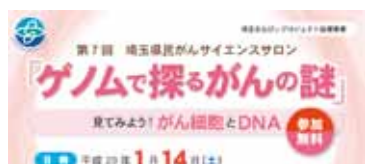


埼玉県民がんサイエンス・サロン

1月14日（土）がんセンター研究棟において、第7回埼玉県民がんサイエンス・サロン「ゲノムで探るがんの謎～見てみよう！がん細胞とDNA～」を開催しました。近年、がん研究はますます専門性を深めており、県民の皆様に研究内容を理解して

いただく活動が求められています。がんの科学面について、研究者が情報を提供し、県民の皆様と共に討論し、理解を深めることを目的に、実習や講演によるがんサイエンス・サロンを毎年実施しています。

当日は小学4年生から70代の方まで65名の参加をいただきました。坂本病院長の挨拶で始まり、中釜



中釜先生

齊・国立がん研究センター理事長に「ゲノムが紐解く新たながん治療・がん予防」と題して最新の知見を交えたご講演をいただきました。実習ではDNAの観察および顕微鏡によるがん細胞の観察を行いました。グループごとに研究員を交えて「がん」について様々な意見交換や質疑応答も活発に行われました。研究機器見学では、DNAシーケンサーやDNAマイクロアレイを見学しました。本サロンを通じて「がん」を科学することに触れ、がんの解明が一步一步進んでいることを実感していただけたのではないかと思います。

（がんサイエンス・サロン実行委員会）

第41回

埼玉県民のための “がんの集い” を開催しました

平成29年1月21日（土）に、「第41回 埼玉県民のための“がんの集い”」をさいたま市のソニックシティ国際会議室において開催しました。

今年度は、「がんの最新治療とトピックス」を総合テーマとし、各診療科医師から胃がん、乳がん、前立腺がん、肺がん及び軟部腫瘍のがんセンターで行っている最新の治療につ

いて講演をおこないました。また、トピックスとしてソーシャルワーカーから治療と仕事を両立について講演をおこないました。

当日は、190名もの皆様が来場し、最後まで熱心に耳を傾けていました。来場者からは、「がん治療の最新治療がとてもわかりやすく説明されていて理解できた」、「がんセンタースタッフのがん治療に対する熱い思いを感じられた」などたくさんの御感想をいただきました。

今年度の「がんの集い」も、県民の皆様にごがん医療の明るい展望をお伝えし、共有できる貴重な場であることを改めて確認することができ、実りある講演会となりました。

（がんの集い実行委員会）

